

令和3年産米は「健苗育成」&「土づくり」からスタート！

昨年は苗床の地温が低いまま苗箱を並べ、出芽不良となった事例がみられました。4月上旬は低温で経過したため、今年も注意が必要です。育苗床は早めに準備し、十分に苗床を温めてから苗箱を並べましょう。

1. 播種は計画的に ～老化苗はゼツタイダメ！～

- 健苗を適期に植えられるよう計画的に作業を進めましょう。
- 10a 当たりに必要な苗箱数の目安→稚苗：25箱、中苗：30箱
- 安定して初期生育を確保できる移植適期は **5月15～20日** 遅くとも5月25日まで！

☆作業時期の目安【5月20日田植えの場合】

田植え日から逆算して計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬け日	← 催芽日	← 播種日	← 育苗期間	← 田植日
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	5月20日
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	

2. 育苗初期の温度・水管理 ～天気、被覆資材の特性に合わせた管理を～

- ハウス内および苗床に温度計を設置、こまめに温度確認！

【低温対策】

- ・保温性の高い資材で温度を確保。遮光性の高い資材は地温が上がらず、出芽に時間を要する場合がありますので要注意。



【高温対策】 ～40℃を超すと30分でヤケることも！日中留守にする際は要注意！～

- ・晴天時は高温障害が発生しやすいので要注意！温度が上がる前に早めにハウスを開放する、遮光資材を使う等の対策を取りましょう。
- ・気温が高い日は苗床の温度が急激に上昇するため、早めに換気、保温マットを除去する等の対策が必要。

育苗期間の温度管理	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな温度管理を行う。
緑化期 (出芽後 2～3日)	25℃	15℃	○ 外気温が25℃以上の日は苗ヤケ要注意！ 早めにハウスを開ける。 ○低温時には保温に努める。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では1.5葉期から入水します(床土の高さ)。2葉期以降は常時湛水し、箱上1cm程度の水深とします。**苗が伸びやすくなるため、ハウスを開放して管理しましょう。**

3. 育苗期間中の病害対策は、温度管理

- 出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状	発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビ	緑化期の低温、湿度の変動が大きい時	○低温をさげ、適切な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない。 出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗		
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、根の褐変、葉の黄化	出芽時の高温多湿	○33℃以上の高温、多湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、枯死、坪枯れ	高温、多湿	○高温、多湿にしない ○発生した場合は苗を処分

4. 土づくり肥料を積極投入！～天候不順に強い土台づくり～

- ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上の効果が期待できます。土壌pHの改善にも有効です。積極的に施用！

【施用のめやす】 **ケイカル 100～120 kg/10a、ようりん 60 kg/10a**

- 耕起後5日以上無降雨が続き、作土層が乾燥することにより、乾土効果（窒素栄養）を得ることができます。さらに、稲わらの分解も促進されます。早めの耕起で乾土効果ゲット！
- 「作土層が浅くなっていませんか？」根張り向上による土壌養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、**耕土深 15cm を目標に耕起を行いましょ**う。トラクターの耕起スピード、踏圧にも注意しましょう！

5. 品種に応じた基肥量の目安 ～つや姫、雪若丸は栽培マニュアルに準じた施肥を！

- 品種に応じた基肥量（窒素量）は、下表を目安に、良食味米の生産に努めましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

※一発基肥肥料を施用する場合は品種ごとの基準施用量を超えないよう注意しましょう！

6. 堆肥の過剰施用は食味にマイナス！要注意！

- 堆肥は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、特徴を把握して施用しましょう。つや姫、雪若丸で堆肥を施用した場合には、必ず基肥の減肥を実施しましょう。

STOP 農作業事故！ ～声をかけあい 助け合い 農作業ゼロへ～

◎春作業はトラクター等の機械作業が多くなります。作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故ゼロを達成しましょう。